【2021年6月9日発行】

THE JAPAN SOCIETY FOR INTERCULTURAL STUDIES

日本国際文化学会ニューズレター 48号

http://jsics.org/

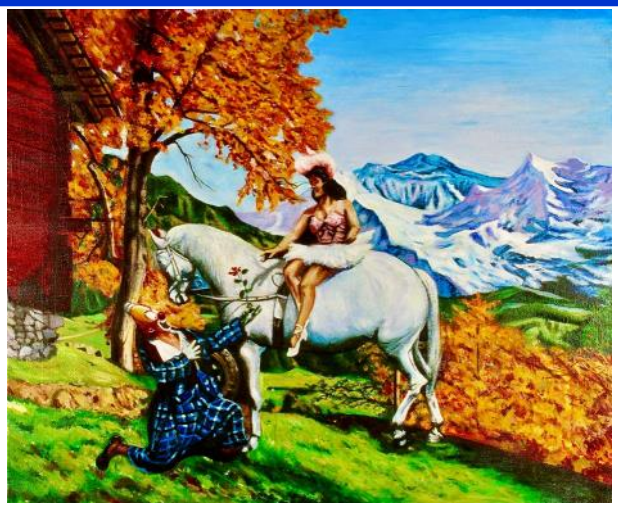
日本国際文化学会事務局
龍谷大学国際学部松居研究室内
〒612-8577
京都市伏見区深草塚本町67
Tel:075－366－2223
Email: jsics@world.ryukoku.ac.jp

第20回全国大会のお知らせ（2021年7月10日･11日開催）

大会テーマ「個別主義の壁、普遍主義の壁―2020年代を切り開く〈ことば〉」

2021年度第20回全国大会開催要項

【 日　時 】2021年7月10日(土)～11日(日)
【開催大学】
　近畿大学法学部　※ZOOMによるオンライン開催
【参加方法】
　「日本国際文化学会事務局」から会員メーリングリストへ送信する「オンライン会場への案内」に記載したミーティングアドレスへ接続してください
【お問合せ先】
　第20回全国大会実行委員会(担当:高橋 梓)
　intercultural_2021@jus.kindai.ac.jp



↑大会プログラム表紙
Katsuhiko Brian Sato, ≪Pierrot Ⅱ≫(2006)

【大会日程】

7月10日(土)
- 9:00～12:40　自由論題A～D
- 12:40～13:10　昼休み
  （ヴァーチャルエクスカーション放映）
- 13:10～15:10　共通論題①
- 15:20～16:20　基調講演
- 16:30～18:00　シンポジウム
- 18:10～19:30　オンライン懇親会

7月11日(日)
- 9:00～11:00　自由論題E～F
- 11:10～13:10　共通論題②
- 13:10～13:40　昼休み
  （ヴァーチャルエクスカーション放映）
- 13:40～15:10　総会
- 15:20～16:50　フォーラム

※ ZOOM1･2の2チャンネルを使用し実施します。
※ ZOOM2のチャンネルは自由論題および議論･交流用のサロンとして公開します。

大会実行委員会からのお知らせ

1. 開催方法:本大会はZOOMを使用して開催されます。各報告のミーティングアドレス(URL)は7月上旬に日本国際文化学会事務局より、メーリングリストを通じて送信されます。7月7日(水)までに届かなかった方は学会事務局(jsics@world.ryukoku.ac.jp)へお知らせください。
2. エクスカーション:大会両日の昼休みに飛鳥･橿原ヴァーチャルエクスカーションの動画を配信する予定です。

第20回全国大会開催挨拶

第20回全国大会実行委員長　高橋　梓

2021年度　第20回全国大会
大会テーマ
個別主義の壁、普遍主義の壁――
2020年代を切り開く〈ことば〉

第19回全国大会に続き、第20回大会を近畿大学で開催させていただきます。

新型コロナウイルスの感染拡大により、昨年度は手段を整える時間的余裕がなく、書面開催という形で大会を運営いたしました。文字媒体の特性を活かした精緻な議論はこれまでの大会のあり方に一石を投じるものであったと確信しておりますが、同時に「瞬間的な出会い」が偶発的にもたらす「きらめき」のようなものが欠けていたことは否めません。フランスの詩人シャルル・ボードレールの顰みに倣い、「永遠のもの」と「一瞬のもの」が創造的行為の本質と見なすならば、リアルタイムのオンライン大会は、時間の流れに抗う文字（永遠）と、つかの間の明滅である声（一瞬）の交差する場だと捉え直すことができます。

我々が用意した大会テーマは、第19回全国大会の予告で発表したものと同様の「個別主義の壁、普遍主義の壁――2020年代を切り開く〈ことば〉」です。2019年にこのテーマを考案した時点で私が念頭に置いていたのは、2010年代に顕在化したナショナリズムとグローバリズムの対立です。国を開き、市場を開き、自己を他者へと広く開いていくことがよしとされる中、各所で自国第一主義が台頭し、2000年代の文化的象徴とも言えるネット世界では両陣営の対立が至るところで繰り広げられていました。

この状況を突破する糸口を探るべく、第19回全国大会における大会テーマに基づくシンポジウムを準備していましたが、新型コロナウイルスの世界的蔓延がもたらした世界の分断は奇しくも本テーマに新たな視座をもたらすことになりました。「ロックダウン」という言葉が流行し、国家や自治体が閉ざされる中、ZOOMに代表されるミーティングツールが急速に普及し、人の繋がりが空間を容易に超えていく現象を我々は目の当たりにしています。オンラインによって国の「壁」が容易に越えられる一方で、入国制限や隔離はこれまで以上に国の「壁」の強固さを実感させます。感染対策を打ち出す施政者の〈ことば〉は、まるで我々個々の内面に潜むイデオロギーを可視化するかのように、SNS上で極端な賛否の対立を引き起こしています。

新型コロナウイルス蔓延から一年間を経た我々は、感染対策とオンライン文化が生んだ新たな社会の創造と、ワクチン接種をきっかけとする従来の社会の回復のあいだに身を置いています。2010年代の社会状況に加えた新たな分断と結束を前にした今だからこそ、我々は「個別主義の壁」と「普遍主義の壁」を見据え、「2020年代を切り開く〈ことば〉」を交わすべきではないでしょうか。当実行委員会は昨年より未曾有の困難に見舞われましたが、それらはすべて日本国際文化学会設立20年目の議論に不可欠なものであったと思っております。我々は本大会をZOOMで開催することを決定いたしましたが、コロナ禍におけるコミュニケーションの象徴ともいえるこのオンラインツールで本テーマを議論することに運命的なものを感じざるを得ません。

二年ぶりのライブ開催となる今大会では、2本の共通論題と21本の自由論題が予定されています。本学会らしく多様な専門性から編まれる各報告は、同時に共通した問題意識を根底に備えているように思います。本大会では自由論題を六つのテーマに基づき分科会をご用意させていただくこととなりました。各セッションの構成にはご意見もあるかと存じますが、何卒ご了承いただけますようお願いいたします。

初日には本大会のテーマ「個別主義の壁、普遍主義の壁――2020年代を切り開く〈ことば〉」を冠するシンポジウムをお届けします。第一部では木原誠先生による基調講演「めぐり逢う時のなかの「個別　/　普遍」――「薔薇の名前」、現象としての「壁　/　ことば」――」、そして第二部では実行委員長の高橋を含む三名の研究者が「「国」を意識するとき――文学・思想・歴史から考える個別主義の「壁」――」と題したパネルディスカッションを展開します。茫漠たる文化に絡め取られる個人の精神が我々の切り口となりますので、ご参集の皆様との活発な議論を期待しております。

二日目には二十周年記念事業に関わるフォーラムを予定しています。若手会員によるプロジェクトの経過報告にご期待ください。

そして本大会では当初より奈良県明日香村・橿原市を巡るエクスカーションを企画しておりました。古代飛鳥の国際的な文化交流を辿ることで、大会テーマの議論と接続する予定でしたが、現地開催が叶わず、皆様をご案内することが不可能となってしまいました。そこで本大会では「ヴァーチャルエクスカーション」として実行委員会作成の飛鳥文化の動画を上映する予定です。こちらも大会と合わせてお楽しみいただければ幸いです。

それでは第20回全国大会にて皆様にお目にかかれますことを心より楽しみにしております。

第20回全国大会１日目：７月10日（土）スケジュール

時間	テーマ・司会	プログラム	ZOOM
9:00～10:30	自由論題A 交錯する日本と東アジア 牧田東一（桜美林大学）	「われわれの歴史」の紡ぎ方 ―学生・市民による「東アジア近現代史共通テキスト」編纂プロジェクト総括― 奥田孝晴（文教大学文教大学国際学部教授）	ZOOM１
		追悼碑への「バックラッシュ現象」―福岡県飯塚市「無窮花堂」を事例に― 大和裕美子（九州共立大学経済学部准教授）	
		20世紀初頭における「朝鮮館」をめぐる文化交流について ―旧桜圃寺内文庫における事例を中心に― 斉藤 理（山口県立大学国際文化学部教授）	
	自由論題B 文学・宗教・思想に反映する個の文化 葉柳和則（長崎大学）	フィンランドにおける死者のカルシッコ ―樹木と人間を結ぶエラマ/elämä― 田中佑実(北海道大学 文学研究科博士後期課程)	ZOOM２
		ミレナ・イェセンスカーの記事に見る「個人主義」 ―エッセイ「個人主義と個人主義者」と1930年代後半の記事からの考察― 半田幸子（ノースアジア大学法学部講師）	
		戦時中日本における白話小説の受容 ―中国文学研究会と同人の翻訳活動を中心に― 朱　琳（仙台高等専門学校総合工学科助教）	
10:40～12:40	自由論題C マイノリティの文化戦略 岡田浩樹（神戸大学）	各時代におけるウイグル文化の変遷 入安ビラール（長野大学環境ツーリズム学部教授）	ZOOM１
		フランス語圏におけるアッシリア人ディアスポラの現在 ―ベルギーのコミュニティを中心に― 松井真之介（宮崎大学多言語多文化教育研究センター准教授）	
		コートジボワールのスラング「ヌゥシ」の意味的傾向について 山川清太郎（京都先端科学大学非常勤講師）	
		増加する技能実習生に焦点を当てて考える多文化共生支援 ―山口県防府市の技能実習生調査から― 林省一（山口県立大学国際文化学研究科修士課程） ウィルソン・エイミー（山口県立大学国際文化学研究科教授） 岩野雅子（山口県立大学国際文化学研究科教授）	
	自由論題D ヒトの交流と文化表象 斎川貴嗣（高崎経済大学）	大阪万博における日本の文化外交政策 加畑杏理（大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程）	ZOOM２
		「大阪築城400年まつり」の歴史表象をめぐる市民運動の展開と意義 山口祐香（九州大学アジア・オセアニア研究教育機構学術研究員）	
		文化遺産観光戦略における伝統文化の表象と商品化 ―シンガポールのプラナカン文化を事例として― 平島(奥村)みさ（東洋大学社会学部教授）	
		日本の広報文化外交政策の理論的考察 ―2004年外務省機構改革後の分析を中心に― 木村英里菜（神戸大学大学院国際文化学研究科博士後期課程）	
12:40～13:10	昼休み	飛鳥・橿原ヴァーチャルエクスカーション動画上映　第１部	ZOOM１
13:10～15:10	共通論題① 社会的分断の時代における政治コミュニケーション：国際協力活動に焦点を当てて 代表者 湯浅拓也（流通経済大学） コメンテーター 伊藤丈人（高齢・障害・求職者支援機構　上席研究員） 齋川貴嗣 （高崎経済大学 准教授）	〈利他〉から〈利己〉へ：日本の開発協力政策を枠づける規範の転換過程 大山貴稔（九州工業大学講師） 国連外交を通じた日本の政策的立場の変化―保護する責任を事例に― 政所大輔（北九州市立大学准教授） 「グローバル意識」の担い手たち：20世紀国際社会からの歴史的問いかけ 湯浅拓也（流通経済大学講師） 宇宙開発を巡る国際協力制度―政治化に伴うガバナンスの深化― 渡邊康宏（東京工業大学博士後期課程）	

近畿大学C館
（画像提供：近畿大学）

→1日目のスケジュール
15:20～の「シンポジウム」、
18:10～の「情報交換会」は 次ページに続きます。

第20回全国大会１日目：７月10日（土）スケジュール（続き）

時間	テーマ・司会	プログラム	ZOOM
15:20～16:20	シンポジウム	基調講演／前座：道化一人芝居 木原 誠（佐賀大学教授） めぐり逢う時のなかの「個別 / 普遍」 ―「薔薇の名前」、現象としての「壁 / ことば」―	ZOOM１
16:30～18:00	個別主義の壁、普遍主義の壁 ―2020年代を切り開く〈ことば〉―	パネルディスカッション 「国」を意識するとき-文学・思想・歴史から考える個別主義の「壁」 コーディネーター：高橋　梓（近畿大学准教授） パネリスト：朝立康太郎（西南学院大学准教授）、 岡野　薫（沖縄国際大学講師）、高橋　梓	
18:10～19:30	情報交換会	オンライン懇談会	

第20回全国大会２日目：７月11日（日）スケジュール

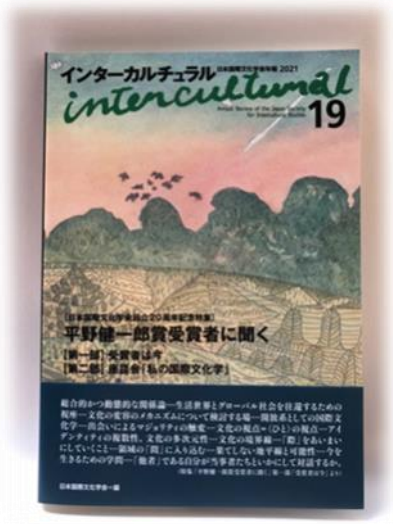
時間	テーマ・司会	プログラム	ZOOM
9:00～11:00	自由論題E 文化に表出するナショナル・アイデンティティ 趙 貴花（名古屋商科大学）	ナショナル・アイデンティティの明瞭化の条件 ―リベラル･ナショナリズムの政治理論におけるネイション観の批判的検討― 藤原拓広（九州大学大学院地球社会統合科学府博士後期課程）	ZOOM１
		アルプスをめぐる文化戦 ―戦間期劇映画におけるアルプス表象のドイツ・スイス比較― 中川拓哉（名古屋大学大学院人文学研究科所属博士候補研究員）	
		英領マラヤにおける演劇と映画を通じた民族意識の形成 山本博之（京都大学准教授）	
	自由論題F 文化的特性の表象としての現代メディア 安田震一（多摩大学）	ミュージックビデオの比較から見える日本の「性の抑圧」の構造 「Lady Marmalade」と「ヘビーローテーション」の比較から 相原征代（北陸大学准教授）	ZOOM２
		テレビ番組における文化的他者の表象 ―北タイ・カヤンとの「異文化交流番組」を事例として― 齋藤大輔（青山学院大学地球社会共生学部准教授）	
		International developments of Digital Heritage High value-added memory and safeguarding of recorded mankind's knowledge Yoshie SEKINE（Edogawa University・Associate Professor）	
		日本社会における差別のワイドショー的展開 ―新型コロナウィルス感染症拡大下の店名「公表」と文化ナショナリズムの関係― 武市一成（埼玉学園大学人間学部講師）	
11:10～13:10	共通論題② オリンピックと政治宣伝（プロパガンダ） ―1930年代の事例を中心に― 代表者： 鈴村裕輔（名城大学） コメンテーター： 飯森明子（早稲田大学）	オリンピックと「国民」 ―映画『国民の誓』(1938)を例に― 中川拓哉（名古屋大学） 「1940年の東京五輪」と政治宣伝 鈴村裕輔（名城大学） 飛鳥を眺めて（画僧提供:高橋 梓）	ZOOM１
13:10～13:40	昼休み	飛鳥・橿原ヴァーチャル エクスカーション動画上映　第２部	
13:40～15:10	総会	総会 第11回平野健一郎賞授賞式	
15:20～16:50	フォーラム グローバル化に対応する「文化」概念の再構築 ―キーワード設定による学際的対話― モデレーター： 菅野敦志（共立女子大学）	キーワード収集からみえた「国際文化学」の輪郭 阿部　純（東北大学大学院国際文化研究科博士後期課程） 増渕佑亮（東北大学大学院国際文化研究科博士後期課程） キーワード事典テーマ別分科会構想について 大和裕美子（九州共立大学経済学部講師） 吉岡剛彦（佐賀大学教育学部教授） 企画の内容・計画について 菅野敦志（共立女子大学国際学部准教授） 松居竜五（龍谷大学国際学部教授）	

『インターカルチュラル』第19号特集の編集を振り返って

年報編集委員会委員長　小林 文生

『インターカルチュラル』第19号の特集「平野健一郎賞受賞者に聞く」について、編集を終えての感想を述べるようにと学会事務局より仰せつかりました。 ここでは、特に第二部の座談会「私の国際文化学」を中心に、その司会者としての感想も交えて述べます。

学会設立20周年を迎える2021年春の発行というタイミングに鑑みて、本号ではこれまでの平野健一郎賞受賞者に語っていただくという特集を企画しました。そこで、2009年度の第一回研究奨励賞から、直近の平野健一郎賞まで、受賞者の皆さんへ声をかけたところ、ほぼ全員から参加快諾のお返事をいただき、12人の参加者の皆さんには、「平野健一郎賞（研究奨励賞）を受賞したのち、ご自身にとっての国際文化学をどのように捉えていらっしゃるか、また今後の国際文化学はどのようにあるべきとお考えか、ご自身の研究活動との関連でご自由に書いてください。」との依頼をして、9月下旬までに論考を提出していただき、その原稿を全員が相互に読んだ上で、10月半ばの座談会で意見交換をすることにしました。



日程の都合で座談会に12人全員が揃うのは不可能でしたが、オンライン方式で、9人の皆さんにお集まりいただきました。自由な意見交換ではありますが、ある程度の話の流れが必要ですので、司会者として、提出された原稿を熟読して、それぞれの中心的課題、問題意識をキーワードとして摘出して、緩やかなテーマ設定に基づく意見交換の目安としての「プログラム」を作成して参加者の皆さんに事前にお送りしました。

何らかの結論を目指すことはせず、自由にご発言いただいた結果として、本誌にご覧の通り、「ひ　と」「個　人」、「あ　いだ」、「当事者」、「教育」、「サステイナビリティ」といったキーワードを中心に活発な意見交換がなされました。「国際文化学」とは、という定義に関して多くの皆さんが平野健一郎先生の『国際文化論』等を踏まえつつ、各自の研究テーマに即して最適のあり方を見つけようと努力していることがよくわかり、それぞれの試行錯誤や悩みの吐露も含めて、大いに触発し合う場となりました。また、皆さんの話を伺って、特に「ディシプリン」という点で、各自が個別に主たる専門分野を持ちつつ分野横断的に議論できる場としての本学会、という捉え方と、様々な従来の専門分野のいずれか一つには収まらない研究を提示、遂行できる場としての本学会、という二つの視点がどこかで重なり合うように思われ、今後への示唆を得られるようにも感じました。

オンライン方式という制約のもとでも、問題意識を共有する研究者同士の心躍る連帯感というべき空気が濃密に醸成されて、別れがたい思いを抱きつつ閉会したのでした。その空気を誌上で読み取っていただけたなら幸いです。

今後も、広く本学会員の間で自由な意見交換がなされて、国際文化学が常に生成する学問として発展していくことを期待したいと心から思う次第です。

◆ 学会誌『インターカルチュラル』の販売について ◆

学会誌『インターカルチュラル』の販売について学会誌の追加購入や、バックナンバーのお求めは
日本国際文化学会事務局まで、メールまたは郵送でご連絡ください。
※セット販売は郵送料無料です。
※個別に購入の場合には、送料をご負担くださいますようお願い申し上げます。
※なお、学会誌の追加及びバックナンバーをお求めの際は下記の発売元でも取り扱っております。

【８号～】株式会社風行社
住所：〒101-0064　東京都千代田区神田猿楽町1-3-2
（TEL&FAX：03-6672-4001）

【１号～７号】アカデミア出版会
住所：〒606-8315　京都市左京区吉田近衛町1-6
（TEL：075-771-7055　FAX：075-771-9595）

事務局からのお知らせ

2021年4月1日より、日本国際文化学会の事務局が龍谷大学松居研究室に移転いたしました。近畿大学の高橋梓幹事と連携しながら、池田悦子幹事と松居でほそぼそと営業しております。学会員のみなさまのさまざまな手助けがなければ成り立たない体制ですので、よろしくお願いいたします。

なお、文化交流創成コーディネーター資格についても、引き続き松居研究室が事務局となります。すでに学会ホームページなどでお伝えしておりますように、昨年度に引き続き今年度も短期集中セミナーは中止となりました。この機会に今後に向けての改革も進めたいと考えておりますので、こちらの方もぜひご協力ください。（松居竜五）

雨よあがれ…。（馬場会長と参加学生）
2018年ICCO沖縄の一場面に思いを乗せて

学会誌『インターカルチュラル』20号投稿論文募集（投稿締切：8月20日）

『インターカルチュラル』20号の投稿論文を募集します。詳細は投稿規程をご覧ください。
その他、著書紹介、博士論文紹介記事の募集も行う予定です。（11月7日締切）詳細はメーリングリストにて周知します。
●応募先/問い合わせ先: 年報編集委員会 editorialboard.intercultural@gmail.com

全国大会開催校募集

本学会の全国大会は、2022年は神戸大学、2023年は名城大学での開催を予定しております。2024年以降の開催のご希望があれば学会事務局までお知らせください。複数のお申し出がある場合には、地域等を考慮して開催順を決定させていただきます。
●応募先/問い合わせ先:学会事務局　jsics@world.ryukoku.ac.jp

ニューズレター＆メーリングリスト掲載情報募集（随時）

●本ニューズレターにて連載中の若手研究者紹介に掲載を希望される方を募集しています。
自薦他薦を問いません　※いただいた個人情報はニューズレターの編集以外の目的には使用いたしません。
●学会会員の新刊の情報など（ニューズレター・メーリングリスト・学会誌等へ掲載予定です。）
●採用情報やその他の会員に有用と思われる情報（メーリングリストに掲載予定です。）
ぜひ学会事務局までご連絡ください。

会費納入のお願い（口座番号変更しました）

・2021年度の年会費の納入をお願いいたします。
一般会員：10,000円、大学院生：5,000円、学部生：2,000円
◆ゆうちょ銀行へ振替用紙を使用してお振込みの場合◆
記号番号：00920-8-325835
◆ゆうちょ銀行以外からお振込みの場合◆
店番〇九九・店番099・当座預金・口座番号0325835
名義：日本国際文化学会
・年会費未納分は速やかにお振込みお願いいたします。
・過去の会費未納分は相当額の学会誌購入で充当できます。
・会費納入に困難を覚える方に対する減免制度があります。
※詳細は事務局までお問い合わせください。

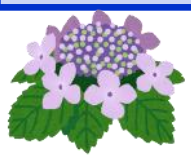
訃報

本学会常任理事の高橋良輔先生（青山学院大学教授）が2021年3月5日にご逝去されました。

全国大会や常任理事会、関連の委員会などの際の、高橋先生のいつも穏やかで真摯なお姿が目に浮かびます。

謹んで哀悼の意を表します。

編集後記



新年度が始まってはや2か月。学会の事務局移転から早いもので2か月が経ちます。あれよあれよという間に時間が過ぎ、全国大会が近づいてきました。メーリングリストからのメールは届いているでしょうか？全国大会参加のご案内にも使用しますので、未着の方はご連絡ください。Web開催となる学会大会の参加は初めてで、近畿大学での開催ができない状況は残念に思いつつも、WEBという新しい形態で皆様にお会いできることに期待しています。梅雨の中、本格的な夏を思わせる日もありますが、体調にお気をつけてお過ごしください。（池田）